

平成28年度第2回

中小企業景況調査報告書

平成28年 7月～9月期 報告
平成28年 10月～12月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成28年7月～9月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 勝浦市商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、南房総市朝夷商工会、印西市商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成28年7月～9月を対象とし、調査期間は平成28年8月20日～9月1日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比
製造業	28	17.0%
建設業	28	17.0%
小売業	44	26.7%
サービス業	65	39.4%
合計	165	

(小数点1位以下四捨五入)

(2)業種別構成

① 建設業

業種	回答企業数	構成比
総合工事業	14	50.0%
職別工事業	12	42.9%
設備工事業	2	7.1%
合計	28	

(小数点1位以下四捨五入)

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比
食料品製造業	10	35.7%
飲料・飼料・たばこ製造業	2	7.1%
家具・装備品製造業	1	3.6%
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.6%
金属製品製造業	4	14.3%
一般機械器具製造業	2	7.1%
精密機械器具製造業	1	3.6%
その他製造業	7	25.0%
合 計	28	

(小数点1位以下四捨五入)

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比
各種商品小売業	1	2.3%
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.6%
飲食料品小売業	22	50.0%
家具・建具・じゅう器小売業	4	9.1%
その他小売業	11	25.0%
合 計	44	

(小数点1位以下四捨五入)

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比
一般飲食店	23	35.4%
宿泊業	4	6.2%
運送業	3	4.6%
自動車整備業	13	20.0%
洗濯・理美容業	12	18.5%
その他のサービス業	10	15.4%
合 計	65	

(小数点1位以下四捨五入)

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

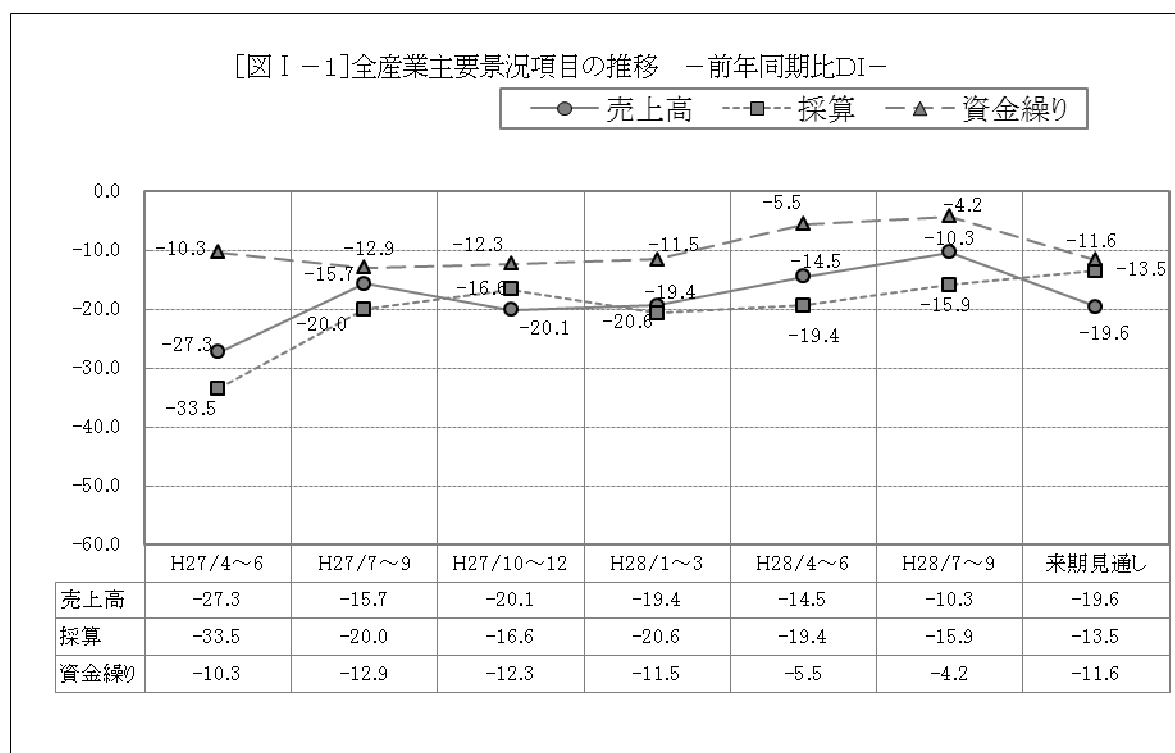
“先行きの不透明感あるも、緩やかに回復している”

千葉県商工会地区の平成 28 年 7～9 月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図 I-1]に示したとおり、今期売上高 DI 値は-10.3、前期（平成 28 年 4～6 月期、-14.5）比で 4.2 ポイントマイナス幅が縮小。同採算 DI 値は-15.9、前期（-19.4）比で 3.5 ポイントマイナス幅が縮小。また、資金繰り DI 値は-4.2、前期（-5.5）比で 1.3 マイナス幅が縮小しており、小幅ながらも、2 期連続で全項目改善傾向にある。

また、前年同期（平成 27 年 7～9 月期）調査と比較してみると、売上高 DI 値は、前年同期（-15.7）比で 5.4 ポイント増、採算 DI 値については、前年同期（-20.0）比で 4.1 ポイント増、資金繰り DI 値は、前年同期（-12.9）比で 8.7 ポイント増といずれもマイナス幅が縮小している。

今期は、業種によるバラツキが大きく、製造業については、売上高、採算、資金繰り DI 値全ての項目でマイナス幅は拡大しているが、サービス業については、全ての項目でマイナス幅は縮小している。建設業、小売業については、売上高 DI 値のマイナス幅は縮小し、採算、資金繰り DI 値のマイナス幅は拡大している。














来期（平成 28 年 10～12 月期）については、先行きの不透明感からか売上高 DI 値は悪化する見通しとなっている。



Ⅱ. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“海外情勢・円高等の影響で、景況感は悪化”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における製造業の景況は、イギリスのEU離脱の影響や中国経済の減速、円高等マイナス材料が多く、売上高 DI 値は-25.0 ポイント、前期と比べると 14.3 ポイント減少している。

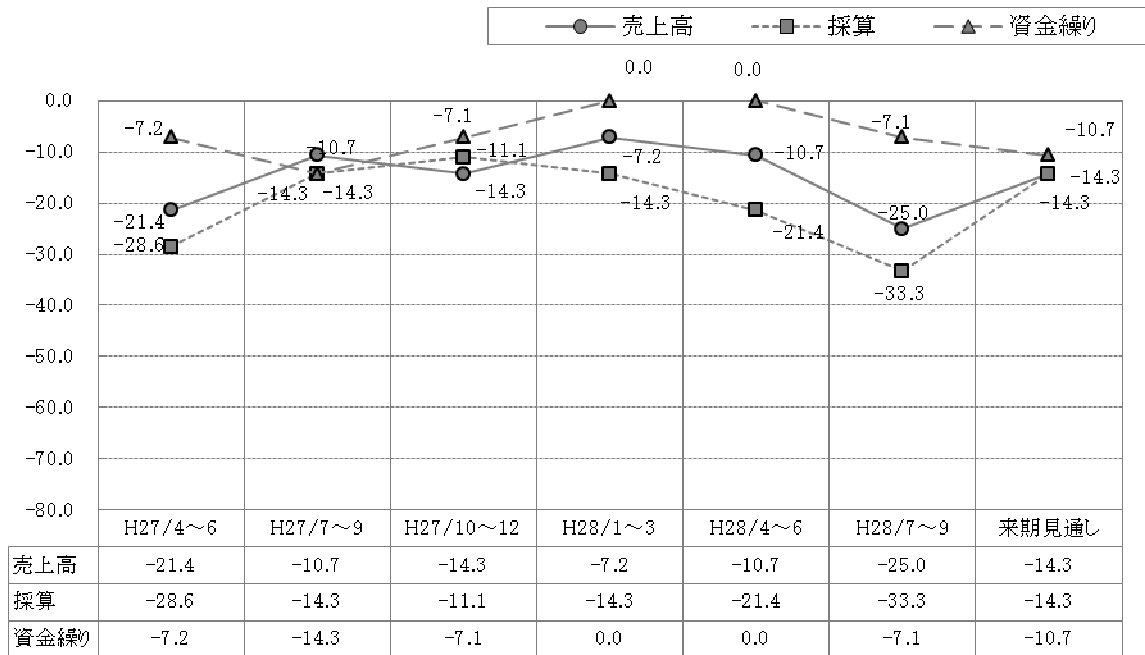
また、原材料高騰や製品（加工）単価の低下、上昇難を経営上の問題点とする事業者は増えており、採算 DI 値は 11.9 ポイントマイナス幅が拡大。また、需要の停滞、製品ニーズの変化を問題点とする事業者は前回同様に多い。

資金繰り DI 値については-7.1 ポイントでマイナス幅が拡大。

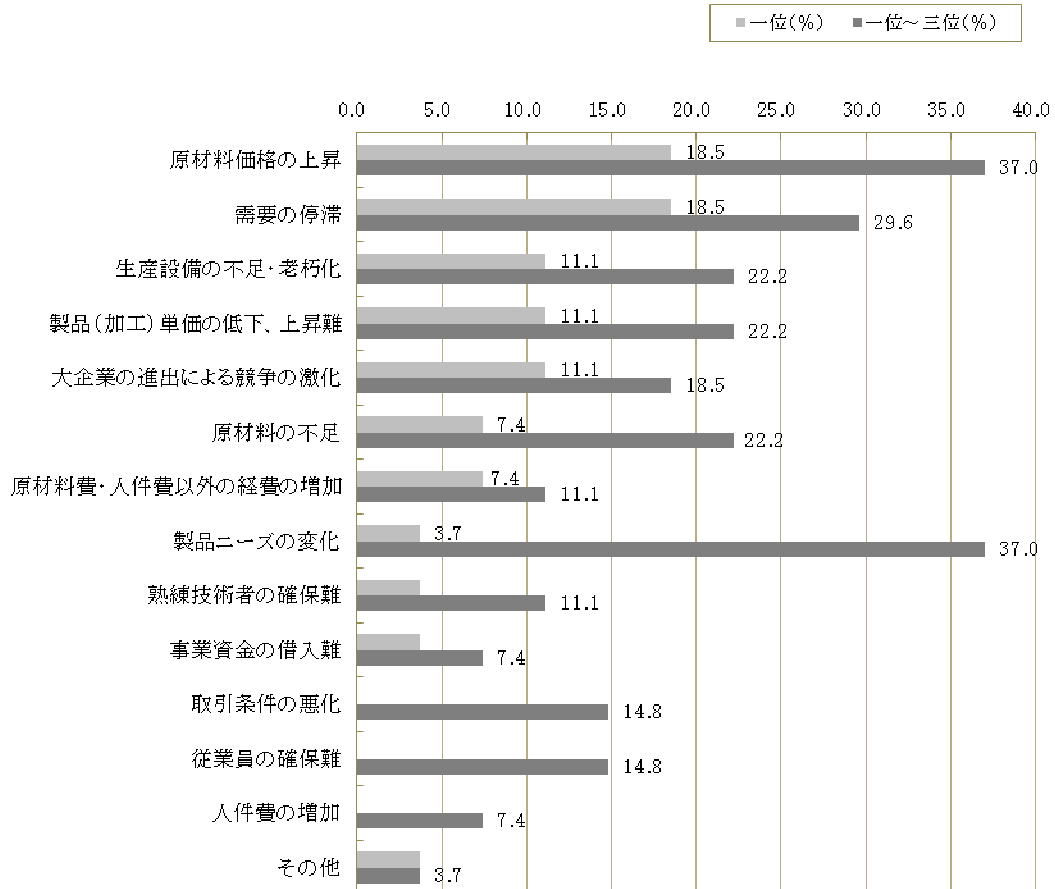
引合いはやや改善されており、円相場も安定してきたことから、来期については、やや改善する見通しではあるが、依然として先行きの不透明感が残っている。

今期は新規設備投資については2社が実施。内訳は、OA 機器、車両・運搬具、生産設備、工場建物となっている。また、来期は1社が計画しており、工場建物の導入を予定している。

[図II-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -












[図II-2] 製造業 経営上の問題点の状況





2. 建設業の景況


“公共事業前倒しにより改善、来期は反動が予測される”


	今期の景況	来期の見通し
売上高		
採算		
資金繰り		
総合		

 :DI 値 +30～

 :DI 値 +10～+30

 :DI 値 +10～-10

 :DI 値 -10～-30

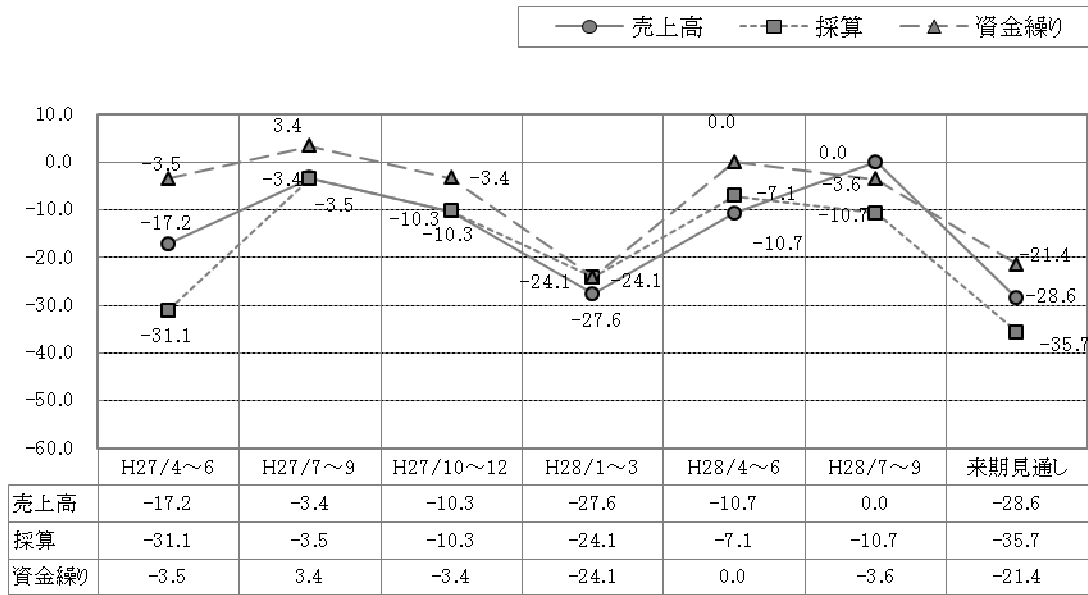
 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、熟練技術者の確保難、従業員確保難、下請業者の確保難を経営上の問題点とする事業者が依然としてあるものの、公共事業の前倒し実施やオリンピック需要で、新規契約工事額や引合い件数が増加。このため、売上高 DI 値は 0.0 ポイント、前期 (-10.7 ポイント) 比で 10.7 ポイントマイナス幅が縮小。しかし、採算 DI 値については -10.7 ポイントで前期 (-7.1 ポイント) 比 -3.6 ポイント、資金繰り DI 値は -3.6 ポイントで、前期 (0.0 ポイント) 比 -3.6 ポイントとそれぞれ悪化している。

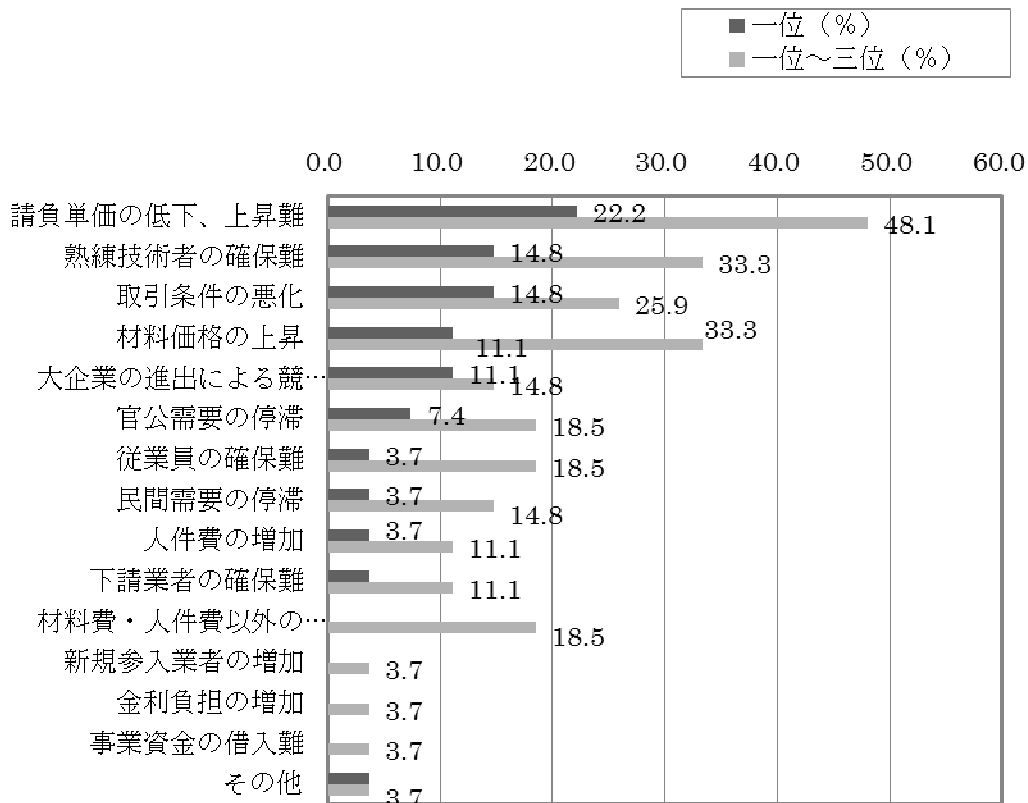
来期については、公共事業の減少が予測されており、売上高、採算、資金繰り共に DI 値は、大幅に悪化する見通しとなっている。

新規設備投資については、1社が実施しており、車両・運搬具を導入。来期計画は 1社となっており、土地、建物などの導入を予定している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“経営環境は依然厳しいが、改善の兆しも見られる”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

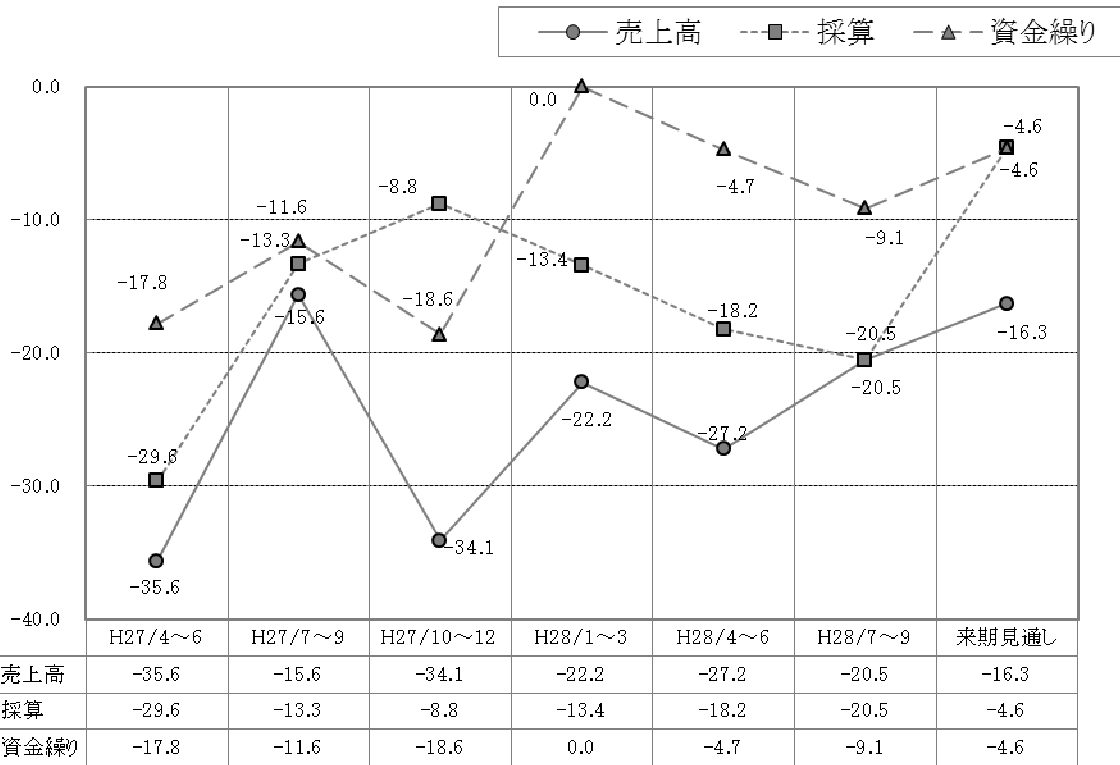
千葉県商工会地区における小売業の景況は、夏のボーナス商戦の影響で売上高DI値は-20.5で、前期(-27.2)よりも6.7ポイントマイナス幅が縮小。大型店・中型店の進出や購買力の他地域への流出を問題点としてあげる事業者は前期同様に多く、競争激化により、客単価が減少、採算DI値については-20.5で、前期(-18.2)から2.3ポイントマイナス幅が拡大している。また、資金繰りDI値についても-9.1で前期(-4.7)から4.4ポイントマイナス幅が拡大している。

来期については、売上高、採算、資金繰り全ての項目で改善する見通しであり、消費マインドに改善の兆しが見られる。

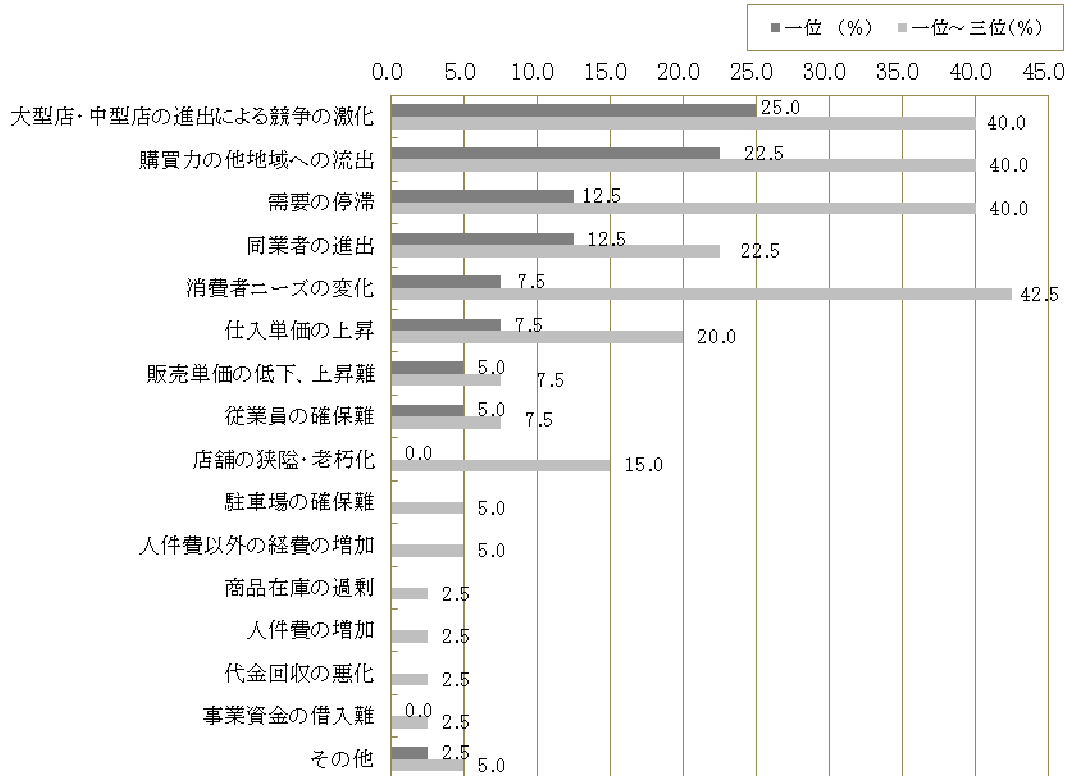
需要の停滞については、相変わらず多くの事業者が問題と感じており、特に客単価が減少傾向にある。品揃えやクロスセル、店舗レイアウトの工夫等魅力的な店舗づくりが引き続き課題となっている。一方で、仕入単価の上昇、販売単価の低下、上昇難を問題点とする事業者が減っていることから、価格転嫁もある程度できていると考えられる。

新規設備投資については、今期実績なし。来期計画は3社で、販売設備、車両・運搬具の導入を予定している。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“景況は引き続き改善、設備投資も増加”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

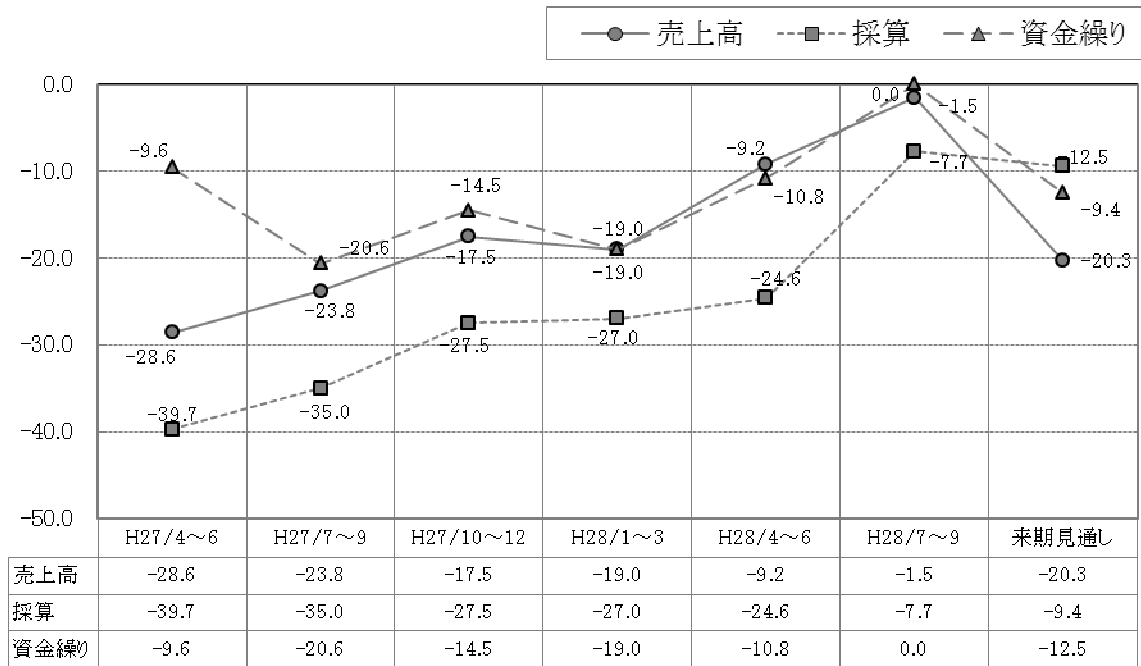
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、夏のボーナスに加え、訪日観光客が増えた影響で売上高 DI 値については-1.5 ポイントで 7.7 ポイント(前期比) マイナス幅が縮小。資金繰り DI 値についても 0.0 ポイントで、前期比 10.8 ポイントマイナス幅が縮小している。採算 DI 値については、-7.7 ポイントで 16.9 ポイント(前期比)と大幅にマイナス幅が縮小しており、改善を継続している。利用者ニーズの変化や利用料金の低下・上昇難を問題点とする事業者が増加してきているが、大企業の進出による競争の激化や材料等仕入単価の上昇を経営上の問題点とする事業者が減少してきていることから、差別化によるサービスの見直しや価格転嫁ができていていると考えられ、客単価・利用客数ともに改善傾向にある。

一方で、店舗施設の狭隘・老朽化や従業員の確保を課題としている事業者は多く、事業拡大のための投資やオペレーション面での改善が望まれる。

来期については、売上高、採算、資金繰り DI 値は、それぞれ悪化する見通しである。

なお、新規設備投資については、4 社が実施。また、来期計画では 4 社が、建物、サービス設備、車両・運搬具などの導入を予定している。

[図Ⅱ-7] サービス業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -



[図Ⅱ-8] サービス業 経営上の問題点の状況

